

報告

「ようこそアイソン彗星」シンポ

作花一志（京都情報大学院大学）

1. はじめに

「来年の秋にヘールポップ並みの大彗星がやって来る、サングレーザーだから近日点通過前後には満月くらいに明るくなるとか、ほんとかな。」金環日食の興奮から覚めたころこんな情報に接した。2013年は京都コンピュータ学院創立50周年で記念の天文イベントにふさわしい。彗星、その道の専門家（といえはやはり渡部潤一さん）に講演してもらって、そして本研究会のメンバー何人かとパネルディスカッションを開こう、とすぐに思いついた。このような試みとしては

2006年秋 さよならプルート

2010年冬 おかえりはやぶさ

を開いた経験があるので進行は大体わかる。11月9日という日程は早すぎるかもしれないと思いつつも、11月後半になると渡部さんは目いっぱい予定が詰まって来るだろうから早くも3月に予約した。パネリストには有本淳一さん、茶木恵子さん、向井正さんに依頼した。天文教育研究会、NPO 花山星空ネットワ

ークに後援をお願いし。9月には募集用のポスター（図1）ができた。

さて問題は人集めだ。近畿の天文ファンを300名は集めてぜひとも彗星観望を勧めたい。今やチラシを印刷して配布よりもSNSを利用する時代である。Facebook、Twitter、各種ML、もちろんブログや個人のウェブサイト。パオナビ <http://paonavi.com/>、星ナビにも載せてもらった。

ところが10月になってから心配になってきた。肝腎のアイソン彗星が明るくならないのだ。世界中のアイちゃん（愛son、愛孫）ファンはヤキモキ、Facebookは一喜一憂のあるいは自らに大丈夫と言いつけているような記事ばかり。これじゃうまくいくかなあ？

2. 当日の進行

当日は予定通り13時に開始。参加者数は学内外から310名で目標の人数は越えた（当日JR東海道線の事故のため滋賀県からの参加者が来られなかったのが残念だった）。本学には札幌と東京にサテライトが設置されていて、このイベントはそこにもリアルタイムで配信され質問もできる。

初め1時間は渡部さんの講演、例の慣れた口調で聴衆を魅了する。2012年の金環日食や金星の日面通過、2013年のロシア・チェリアビンスクの隕石落下や小惑星（2012DA14）の地球接近といった最近起こった天文の話題が取り上げられた。次いで古来人間は彗星とどのように関わって来たかについて、「これまで彗星の訪れは、姿が不気味に見えたのか災いを招く"凶兆"ととられていたケースが多かったのですが、他方で稲穂をイメージさせる



図1

ため豊作につながる"瑞兆"とされたこともあります。」という一節は印象に残った。彗星の軌道、起源について今までどのように解明されて来たかの解説、20世紀後半からの大彗星の紹介、そして今回アイソン彗星はいつころどのように見えるかの予想。「12月初旬の東の空に、金星並みの明るさで見られるでしょう。天候に恵まれることを祈りながら、長い尾を引く姿を楽しみにしてください」という呼び掛けで終わった。今となってはかなり希望的観測だったが(図2)。



図 2

休憩をはさんで第2部では渡部さんの他に4人が加わり5人によるパネルディスカッションである。有本さんは、ハレー彗星(1986年)の出現で天文に興味を持ち始めたとし「アイソン彗星の観望を学校教育現場で対応していきたい。」と天文教育の立場を強調。茶木さんは「星の間を縫うように現れた百武彗星(1995年)を見たとき感動して鳥肌が立ち、ハートに火をつけられました。」との当時のエピソードを熱く語る。向井さんは「思い出の彗星」としてハレー彗星を取り上げ、当時の日本が探査計画で大きな貢献をしたことを説明。そして筆者は「古文書天文学」の視点から、古い文献に記されている数々の彗星をそして「思い出の彗星」としてはウェスト彗星(1976年)を紹介した。参加者からの質問(図

3) ではやはり、京都でまた東京でアイソン彗星を観望する方法や今後の観望会・講演会のスケジュールなどが多かったが、自分の彗星観測記を披露された方や自分たちの観望計画を紹介された方もおられた。



図 3

終了後パネリストと聴講者が集まったの茶話会が開かれ、天文の話に花を咲かせ交流を深めた。20日後の近日点通過、およびその翌週の夜明け前の姿を期待しつつ。

残念ながらアイソン彗星の雄姿は見られなかった。その結末はここで語るまでもない。アイソンはサングレーザーということで期待され過ぎたのは気の毒だった。ウェストやヘールボップと並ぶ大彗星はもう見られそうもない。

もろともにあはれと思へアイソンの
身を焦がしつつ飛び尽き果てぬ
(本歌省略)

なおこのシンポジウム開催に協力していただいた株式会社ビューティフルツアー、株式会社ヒーロー、株式会社恒星社厚生閣に厚くお礼申し上げます。

作花 一志